

令和2年度 第2回 生涯学習審議会会議抄録

日時：令和2年6月4日（木）13時30分～15時20分

場所：西宮市役所東館8階 教育委員会分室

◆出席委員

立田会長※、森副会長、飯干委員、根岸委員、三澤委員※、川本委員、田中委員、佐藤委員※、服部委員※、本多委員※、吉田委員、大部委員※

◆行政出席者

石井市長※、重松教育長、藤江文化スポーツ部長※、上田生涯学習部長、藤綱生涯学習事業課長（兼務 大学連携課長）※、坂田教育次長※、漁学校教育部長※、谷口地域学校協働課長、後迫地域学校協働課担当課長（放課後事業）、俵谷文化財課長※、石井地域学習推進課長※、北読書振興課長※、中西読書振興課担当課長（図書館企画）※、牧山青少年育成課長※、井上人権教育推進課長（併任 社会教育部参事）※

【事務局】

中島生涯学習企画課長（併任 社会教育部参事）、坂井生涯学習企画課係長、酒井生涯学習企画課係長、中村生涯学習企画課係長、長手生涯学習事業課係長※、渡邊生涯学習事業課副主査※

※Zoom を介した出席

署名委員

①

①

◆議事抄録

事務局 ただいまより令和2年度第2回生涯学習審議会を開催します。本日は Zoom を利用したオンライン会議となります。接続等で不慣れな点があると思いますがご了承ください。

この生涯学習審議会は社会教育委員会議から移行する形で、本年4月に市長事務部に新たに設置され、本日は第1期の委員が揃う初めての会議となります。初めに石井市長よりご挨拶申し上げます。

市長 本日はサテライトから失礼します。どうぞよろしくお願いいたします。

令和2年度第2回生涯学習審議会の開催にあたり、委員の皆様には、特に生涯学習の分野で、様々なご理解・ご協力をいただいていることに感謝します。新型コロナウイルス感染症の状況では経験したことのない毎日を送っているところです。本市では3月1日に県内初の2人の感染者が発生して以来、3か月にわたり、私も想像しないような毎日を送ってきましたが、生涯学習の分野においても思いをはせることができました。生涯学習は個人の趣味や教養といった学びも大事ですが、それ以上に社会やコミュニティを形成するために大切なものであることは皆様と合意しているところです。公共というものは行政だけが担うと思われがちですが、行政は行政の役割があるものの、公共は行政だけの役割ではなく、市民がまちを良くしていこう、社会に参画していこう、自らの意見を伝えていこうということをしていく中で、社会全体をよりよくしていくことが大事になっていると、私自身思うところです。コロナが起きる前は、環境の分野や防災の分野が、特に市民の皆さんと一緒に生涯学習の文脈で取り組む可能性があると思っていたところがありますが、この3か月間の経験を経て様々な思いが巡る時間でもありました。表面的にはコロナの中で静かにしなければいけない、しかし家の中で皆が何を思い、何を感じているかは行政では手の届かないところでもあります。また行政職員では手が届かないものがある中、人間と人間が触れ合えない状況はありますが、市民の間で変えられるのではないかと、それぞれの立場でやっていただくことができました。例えば地域の子ども食堂の皆さんが食堂はできなくともお弁当をもって行っていいということを自発的にされていたり、民生委員さんが独居の高齢者に会いにいけなけれど電話をするということがありました。行政がこうしてくれと言うのではなく、市民がやれる中でやれることをやっていただけるのは大変心強かったと思っていますが、そういう中でこの審議会の2回目を迎えています。この審議会の役割として期待しているのは、では行政はその中で何をしていくか、施設もあります、税金で雇用されている職員もいます。そのリソースをどこに割くべきか。そして同時に市民の皆さんがよりよい社会をつくるために何をやっていけるかという啓発、きっかけづくりを、行政としてどういうことに力点を置けばいいかについて皆様方のお考えをいただき、それを西宮市として形にしていきたいと思っています。この状況は人類に課された大きな

チャレンジだと思っていますが、ぜひこの審議会が、いま、西宮市としてこうした審議をするタイミングとなったのも巡りあわせであると感じています。ぜひ活発なご意見をいただき、新しいオンラインという形を取らせていただきましたが、皆様方にはよろしく願いしてご挨拶とさせていただきます。

事務局

続いて教育委員会を代表し、重松教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長

令和2年度第2回生涯学習審議会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。委員の皆様には日ごろから西宮市の教育行政にご協力いただき感謝します。コロナウィルスの状況もありますが、私たちの社会を取り巻く状況としてよく言われるのは、グローバル化、高度情報化、科学技術の進歩、少子高齢化、地域の人間関係の希薄化、特に家庭・地域の教育力の低下が言われています。人生100年時代に入り、私たちの生活の仕方が大きく変わってきています。今までは学んで、仕事に就いて、退職したら自由な生活でしたが、これからは学びが終わったらさらに社会についてどういう風に見ていくかを考えていかなければならない時代になっています。それがコロナウィルスで状況がかなり変わってきていると思います。学校にあっても社会に開かれた教育課程ということで、学んだことを地域社会で活用したり、地域人材に学校で活躍してもらい、防災や安全指導も学校と一緒にやっていくことが大きな狙いでした。ところがこの間3か月も学校が休校になったということでいろんな課題が出ています。生涯学習に関しては、一つは学習の問題があります。今までは学校で授業をして、それを自分で復習するということがでしたが、これからは勉強の仕方をやっていかなければならないのではないかと考えられます。ただし、小学校低学年では学び方や基本的なことをやっていかねばなりません。学び方の方向が変わってくると思います。それができれば休校になってもオンライン教育で、自分で与えられた課題をやったりわからないところを調べることができます。学び方を知らなければできないことですので、そういう方向転換が必要になると考えています。二つ目は、3か月の休みで子供の生活が乱れた、なかなか朝起きれなかったり夜遅くなっていることがあったようで、規則正しい生活をどうするかが大事になっています。コロナで3密を避けるということも言われていますが、それをきちんと守れるということにもつながっていきます。日本では感染率が収まってきていて、そういうことが日本ではきちんとできたからではないかと言われていますが、そうした我慢するとか耐える力をしっかりつけていくことだと思っています。もう一つは、この間家で閉じこもっていましたので、健康面の問題があります。簡単な体操や散歩、ジョギング等で体力向上に努めることが大事だったと思っています。そういうことが今回課題として出てきていますし、それにどう対応するかで、西宮市でもオンライン教育ができる、国の言うギガスクールを取り入れたいと思っているし、やっていかねばと思っています。ただ、学校というところは学ぶだけではなく、人とのつながりや体験を通

して人間の心を育てることが大事なことで、それは生涯学習に繋がっていくことだと思えます。ただ学ぶだけではなく人とのつながりやそういう体験を通して、それを地域にどう返していくかということに繋がると考えています。私たちも学校でやっていきますので、ぜひ生涯学習でもそのようなことがどうしたらできるかと考えていただきたいと思えます。新しい生活様式ということが言われており、従来と違った生活様式になってくると思えますし、ここから出てきた課題をどう解決するかが大事になると思えます。今後生涯学習審議会の中で、地域の協力や支援をどうやっていけばいいかということ、地域の中にある文化をどうつないでいくのか、地域の人々との学び、図書館や芸文センターや大学等を通じて学ぶことが必要になってくるのではないかと思えます。それを地域に返していくことが大事になると思えます。従来のものに比べても、イベント形式でやるのか小さな集団としてやるのかということも必要になるでしょうし、大学等でもそうですがオンラインで学習をやる、大学の授業をオープンに見せていますので、それも参考になると思っています。そういうことをやっていくことで西宮市としてどのような生涯教育をやっていくか。人生100年時代を見据え、魅力あるまちとして、西宮市としての生涯学習のあり方の方向付けをできればと思っています。今後ご審議をよろしくお願ひしたいと思えます。

事務局

市長・教育長は公務のため退席させていただきます。引き続き委員紹介に移ります。6月1日付で公募委員2名が新たに委嘱され12名となっています。任期は皆さん令和4年5月31日までとなります。第1回目は書面会議であったため、自己紹介は今回が初めてとなります。

【委員自己紹介】

事務局

事務局の自己紹介は時間の関係で配付している資料2の名簿の確認に替えさせていただきます。今年度の組織改正につき課名の変更がありました。また企画部門を教育委員会から産業文化局に移管し生涯学習部が新たに設けられています。次年度は引き続き公民館や図書館等の事業部門の移管に取り組みます。

今年度推進計画の策定を進めるにあたり、4月に計画策定支援業務の委託業者と契約を締結いたしました。本日も担当者が出席しています。

【担当者自己紹介】

事務局

第1回書面評決結果は既にお知らせしたとおりですが、会長は立田委員、副会長は森委員にお願いします。また阪神南地区社会教育委員協議会への派遣は会長と副会長に、兵庫県社会教育委員協議会への派遣は会長にお願いしたいと思います。西宮市人権・同和教育協議会への派遣は、今年度1年間は公募委員の大部委員

をお願いしたいと思います。今年度はいつも通りの協議会の開催ができないことが多いと思いますが、ご参加のほどどうぞよろしくお願い致します。この後は会長に会議の進行と、副会長にサポート役をお願い致します。

会長 皆さんの立場から生涯学習についての貴重なご意見をいただきながら、これからの生涯学習施策につながるよう進めたいと思います。それでは次第に従って議事を進めます。本日の出席者は12名です。今回の会議は公開となっておりますが傍聴者はありませんか。

事務局 ございません。

会長 それでは報告第1号について事務局よりお願いします。

事務局 資料3をご覧ください。本市では、新型コロナウイルス感染症に関する対応を様々なところでしておりますが、中でも社会教育関係の施設については緊急事態宣言でほとんどの施設が休業となりました。5月21日の緊急事態宣言の解除に伴い、5月22日付けの「市立公共施設の再開について」の資料のとおりとなっております。一部利用制限があるものの、元の状態に徐々に近づいているところです。ただし、行事やイベントは夏頃まではほとんどのものが中止になっております。

会長 今回の報告について質問等がありますか。特になければ次に移りたいと思います。報告第2号について事務局より説明をお願いします。

事務局 本日の資料と一緒に事前に「西宮教育推進の方向」の冊子を郵送させていただいております。令和2年度の本市の教育行政全般、学校教育、社会教育の目標や取り組み内容を載せておりますので、お時間のある時にご一読いただければと思います。本日は、お時間の関係で所管課からの説明は省略させていただきますが、何かご意見やご質問はございますか。

委員 (なし)

会長 それでは続いて協議第1号について説明をお願いします。

事務局 今期の生涯学習審議会のテーマにつきましては、主に今年度策定予定の生涯学習推進計画に関連しまして、生涯学習関連施設のあり方について、審議を進めていく予定としております。資料5をご覧ください。西宮市生涯学習推進ビジョン(素案)になります。表紙の四角の枠に書かれてありますように、本市の生涯学習推進計画は、平成12年度の策定以降、平成30年度に一度ビジョンという形で素案が出ております。資料6は、昨年度の社会教育委員会より提出された答申書の概要版です。今期はこの双方をベースにいたしまして、審議会で皆さまのご意

見をいただきながら、年度内の生涯学習推進計画の策定を目指してまいります。

計画策定のスケジュールは、資料4をご覧ください。生涯学習審議会の開催に合わせて説明をさせていただき、それに対するご意見をいただきながら策定を進めていきたいと思っております。夏までに市政モニター調査や、各関連施設への調査などアンケート実施をいたします。8月には結果をお示しし、夏頃には素案を作成していくという流れです。今後のコロナの感染状況によっては、若干後ろ倒しになる可能性がございます。

いろいろと調査をしていきますが、各委員の所属されている団体へももしかしたら調査をさせていただくかもしれませんので、その際にご協力をお願いいたします。本日の会議では、協議事項に挙げている2点について、計画に反映させるため、委員の皆様のご意見をいただければと思います。

会長 市政モニター調査はどのような方法で行われるのでしょうか。どの程度の回収率が見込まれていますか。

事務局 市政モニター調査は市民相談課が毎年4回実施しており、市民の中から18歳以上400名程度をモニターとして選び、その人に対して質問紙を配って調査するものです。6月後半から7月にかけて調査項目を作成し、7月20～25日に発送、8月末には結果が得られる予定です。数としては400名と少ないですが、回収率は高くなっています。

会長 もう1点、毎年行われている調査でしょうか。前回も行われているでしょうか。

事務局 市政モニター調査とは別に市民意識調査も実施しており、市民意識調査は一度平成26年度に生涯学習についてのアンケートを取っています。平成30年度にもビジョン作成に当たって市政モニター調査を実施しています。今年度は改めて異なる視点も加えてモニター調査を実施しようと考えています。

会長 まず皆さんにアンケート案についてお聞きする前に、計画スケジュール等について何かあればお願いします。特にないでしょうか。

それでは協議事項(1)モニター調査について、1回目に意見確認書でいただいた意見も踏まえてまとめられていますので、アンケート案について質問等があればお願いします。資料7です。前回調査と項目が同じなのかどうかということや、前回の調査と比べて状況が変わってきている中でのモニター調査になってくると思います。資料7の下の方でコロナウィルスの影響について、どのような施策が必要かといった項目については、前回調査と内容が異なるものになっていると思います。いかがでしょうか。

委員 アンケートについて本の冊数や学習時間について聞いてはどうかということを申し上げましたが、経済系ではビジネスパーソンへの調査の注意として、学習や本の捉え方がまちまちで、漫画を含めたりといったことで意味が変わってきます。すべて細かく聞くとすごい数になるので、何を学習に含めるのか、どういう本について聞くかを、明確にした方がよいと思います。漫画を10冊読むのと哲学書1冊を一緒にするのは危険だと思います。学習や本の定義が必要ではないでしょうか。ビジネスパーソンに限定して調査すると、一般書や小説も含めると1～2冊になります。教養書やビジネス書になると平均は0に近くなります。ビジネスパーソンだけではないので、どのような本を学習とするかは考えなければならないと思います。

会長 市民全般なのでいろんな人が入ってくると思います。前回と同じ項目なら、そうしてもよいと思いますが。

事務局 漫画を除くが一般書は含めてもよいと考えています。前は聞いていない項目です。学習活動については、1問目からの続きで概ね理解していただけるのではないかと考えています。

会長 文科省の世論調査でもこの1年間にどんな学習活動や体験活動をしたかについて、はい・いいえで尋ねています。その上ではいと答えた人、いいえと答えた人はなぜかと聞いています。それから、しない理由として一番よく上がってくるのは時間がないということですが、時間があってもなくてもする人はするのであまり意味がない質問かもしれませんが、世論調査の内容に合わせて項目を入れ替えなければ、回答の整理がつかないような気がします。また学習活動について、ビジネスパーソンを考慮しても、文科省の生涯学習世論調査との整合を考えると良いと思います。また委員の指摘との整合について、まず本を読んだかどうかについてははい・いいえで尋ねてはと思います。単行本や雑誌と本は異なるので、雑誌はかなりの人が読んでいたりします。単行本かどうか、漫画はどうか、私は漫画も本に含めてもよいと思っていて、ビジネス漫画、教科書漫画もあるので、前の調査の結果と比較していただければと思います。前はどうかだったのでしょうか。

事務局 前は尋ねていない項目で、委員の意見を反映したものです。

会長 冊数を聞くのがいいでしょうが、単行本について聞く場合と雑誌や漫画も含める場合があります。雑誌や漫画も含めると多くなりますが単行本については少なくなります。分けて尋ねて分析する意味があるでしょうか。

委員 だいたいこういう調査だと、ある媒体を読んでいる人は他も読んでいるという

相関は出ます。市民対象ということでは広めにとっておいたり、「これこれは除く」と明確にしておけば1問でもよいと思います。またインターネット媒体についてどう考えるかという問題もあります。WEBから情報を取っている人もいます。媒体の話とコンテンツの話の両方を考えなければなりません。

会長 活字媒体に限って良いのではないかと思います。60代以上でも8割程度がインターネットを使えます。この間5に加えるなら、この1か月間という限定があると、今回は生活の変化があるため、その影響があります。この1か月で生活スタイルがどう変わったか、学習スタイルがどう変わったかは入れたいと思います。それを入れたほうが調査としては面白いと思っています。

事務局 コロナを受けて学習の仕方が変わったことや制限されたことについて合わせて聞ければと思っています。ただ設問数が20問程度に限られているため、一度はい・いいえを尋ねるのはもったいないということがあり一度に聞いています。またモニター調査を運営する部局と相談しながらご意見を反映できるようにしたいと思います。

会長 今までの調査でだいたいわかっているような調査は外して、生活の変化を尋ねるものを増やす方が面白いのではないかと思います。生涯学習のための調査であるため、そのことについて変化したことを3～4問入れたほうが良いと思います。逆に削るものがあるかと思いますが、一度課で練り直していただけますか。練り直した案をまたご提示いただければと思います。調査についてほかにご意見はないでしょうか。

委員 今お話しいただいたように精査して要らないものを落とし、最近の変化の状況をしっかり聞く方がよいと思います。具体的などころでは、質問によって抽象度の高いものがあるので、市にどのようなことを望むかとか、必要な市民の力は何かといった、それを聞いてどうするのかというものがあります。それよりも市民の生涯学習に関わる実情をしっかりと聞けると良いのではないのでしょうか。特に大学でも大半ではオンラインになっており、うまくやれているところ、やれていないところがあります。東北大学の学生などは、95%以上は対応できていますが、他の大学ではスマホしか持っていないと対応できない話も聞きます。市民の間でもやれる人はできるしできない人はできないということが起きそうだと思いますので、使っているデバイス、パソコン・スマホ・タブレット等の事実関係についてや、インターネットのデータ量の制約などは一度ちゃんと調査できるといいと思いました。

会長 いいご意見だと思います。私もオンライン講義をやっているパソコンの中で

一生懸命やっても少し高度なことをやろうとするとスマホなのでできないと言われる。ユニバーサルデザイン化という考え方がありますが、ズームでも字が細かくて読めないといったことがあり、字が小さくて読めない、音が聞こえないといった問題もあります。授業でも困っていて、そういう学生を放っておけないという状況があり、それは地域の生涯学習でも同じ状況があると思います。コロナの対応の中で学習活動に参加できなくなった人を拾い上げたほうが良いと思います。また、オンライン学習をする中で、市民の学習を考えたときに、一番いいのはオンライン学習と対面型を組み合わせる学習が良いと思っていますが、対面型で大勢集めるということができなくなってくるので、学習の変化をどうアンケートに入れていけるかということだと思います。

これは次の項目ともすごく関わってくることです。その前に、前回いただいた意見の確認書の中で、「(仮称) 越木岩センターのあり方」について意見をいただいているので、資料8ですが、それも計画に反映できるようお願いしたいと思います。その上で協議事項(2)について、新型コロナウイルスに関して社会の変化に対応して市民の力をはぐくむのが生涯学習の大きな役割だと思うので、今の状況だからこそ生涯学習・社会教育が果たす役割について一人ずつお願いしたいと思います。

委員

学校園では社会教育にどうこうと言えるレベルではなく、レベル1をどうするのか、いつになったら3月3日以前の状況に戻るのかというところで四苦八苦しています。子供の生活状況をみると、公園等で多くの子供が遊んでいます。中学生・高校生も。そういう子供が熱中症のことも考えながら、どこかでしっとり学んだり地域で交流できる場は必要だと思っています。学校園では人と人とが離れよという指導をしています。本来は交流しながら学びを深めようとしていたのに、真逆の方向に進んでいるところがあり困惑しています。教育委員会に指導助言いただきながら学校園で頑張っているのですが、学校だけ、地域だけではなくそれぞれが何をできるかということで考えていきたいと思っています。

会長

アクティブラーニングということも言われていますが、物理的距離を取って動くことを考えなければならなくなっています。

委員

いま何ができるということはないと思います。人と人が集まるのが難しくなっているので、何か今やるということは難しいと思っています。ただ、会えないけれど誰かに話を聞いてほしい、誰かの話を聞きたいということはあると思うので、コロナ以前の人つながりが、これからにつながるものになると思います。そういうつながりがない人は、やっておけばよかったと思う瞬間があると思います。これからどうしていくべきかを考える、よい機会になっていると思います。いろんなことをする人を手助けするような、生涯学習や社会教育の何かが公民館等で提供され、よりよい生活ができるきっかけになればいいと思います。いろんなこ

とで困っている人はいっぱいいて、それに気づきやすい時期で情報を皆欲しがっているの、寄り添っていける、これから生きるために必要なことが一緒になればと思います。

会長 特につながりの変化が大きいという点は、自粛の中で市民がひきこもり状況になっており、それが普通の状況に戻ったときに一人で暮らす人の苦しさを全員が体験し、人と会うことの意味が違ってきているような気がします。人と会うことの意味、人の話を聞く欲求が大きく変化しているということをどう学習に反映させるか、支援の方法にどう入れていくかは課題だと思います。

委員 ハコモノ施設が閉鎖になり、グループでやるような活動もできなくなっています。学校も休校で、私は小学生にサッカーの指導をしています。3か月何もできず、体を使うことではランニングなど個人でもできると思いますが、なかなか難しい面があります。この先では、自宅でできるオンラインで繋がって料理教室などもできるだろうと思いますので、そちらの方へシフトしていく、ただ、生涯学習と言えば高齢者対象になってくるとオンラインも難しいと思いますが、考え方を変えていかなければならないと思います。

会長 サッカーの指導をされてきたということですが、その中で大きな問題は集団スポーツがこれまで普通に行われてきた中で、それが変化していく、生涯学習のプログラムの中でも集団で行うアクティビティがあったと思うがそれらも課題になります。

委員 特に地域の交流の拠点の公民館が使用できなくなっていました。その中で皆さんがご指摘のように、色々と利用してお話しできていた人と話せない、つながりもないという中で、地域では「心が疲れた」ということを本当に言われます。こういう状況の中で心が疲れることが大変だったということを経験しました。私は子供が一番気になります。PTA も子ども会も活動が一切できなかったです。子供は学校に行けなかった、経験できなかった、大変な思いがあったと思います。今後感染対策をしながら活動をしていきたいと思っています。その中で地域の大人は、いつも思うことですが、地域の子供は地域の大人が育てていく、そういう思いで活動しています。特にそれが今まで学校にも行ってない、地域にもつながりなかった子供について心が痛んでいます。子供たちも強くならねばならないし、地域も一体になって社会教育をやっていくのが大事だと思つづきました。特に我々だけでなく、市職員の方も地域の人々に関わって支援をしていただきたいと思います。

会長 「心が疲れた」という言葉はとても大切で、大人も子供も心が疲れている時代の

ような気がします。子ども会も地域のコミュニティ・スクールも、推進計画を作ってきましたが、内容を見直していく必要があると思います。子供たちを感染対策という、公衆衛生上の問題で、社会学とか経済学とかあるなかで公衆衛生学の視点で語られており、今までは防災・防犯・交通が中心でしたが、今回は公衆衛生の観点で防災教育を入れていく必要があると思います。新たなアイデアもいただければと思います。

委員

今の状況で社会教育については、ここに基本目標として3つの支援について書かれています。その支援につながるようなこととして気になることを話したいと思います。学ぶということは何かといえば、知る、知ったらそれで終わるのではなく、わからなければならない、わかるということは、行動が伴わなければならないと思います。特別支援の子供が普通学級に行くと、聴覚障害がある子なら、ボランティアの人がすべてホワイトボードに書いています。それを読んで、おもしろいこともワテンボ遅れて笑うことになります。それを見て周りの子供はどうわかるのか、そのボランティアがいなくなったら、周りの子供が書いて教えます。それは教えられたのではなく、わかったから行動に移したことになります。すごいのはその子供の家の近所のコンビニにメモ帳を置くように言おうと、生徒会の役員が言い出しました。まさに知って、わかって、行動していくことで、その三つがあって学ぶということだと教えられました。今コンビニに行けば置いてあります。役所や病院にも筆談用のメモが置いてあります。それを何年前に生徒会の役員が言い出したということがあります。そういう学びに、生涯学習の学習とはそこに繋がっていくものだとすることを、伝えていけるようなシステムや交流の場がほしいと思っています。

会長

学びのサイクルですね。しっかり知って、わかって、行動に移していくというサイクルがあると思います。サイクルそのものも、見直しとか振り返りとかの言葉もありますが、子供だけではなく指導者のレベルでも、今回の状況でも全くわからない状況で、どう行動したらいいかもわからない今の状況で見直していくことが必要だと思います。

委員

理念として生涯学習・社会教育をとらえるなら、市民がいつでもどこでも必要な時に学べるようにという理念的には、今だろうがいつでも必要なことだと思います。もう少し実践的に、環境整備として考えるなら、大学でもすべてがオンラインになってみて実感したこととして、以前は急にオンラインでと言われたら授業の質が下がるような気がして、できるだろうかと思っていましたが、今回ある程度環境が整っている中でやってみると、以前より学習効果の高い授業がやれている面もあり、学生の反応もいいと感じています。それを踏まえて、コロナが終息した後でも以前に戻るのではなく、軸足がオンラインに移行していくことを実感し

ています。オンラインの世界に学びの場が広がっていくのはとてもいいことで、コロナになって人と会えない状況は確かにありますが、オンラインにアクセスできる人はどこにいても一瞬で繋がって顔を見て話せるというコミュニケーションができる、いつでもだれでもつながりやすくなったという点ではプラスでもあります。ただ、環境の制約や経済面、スキルの面の格差もますます広がると感じており、今後を見据えるなら、経済的な面や使いこなせるスキルを含めてサポートしていくことが必要になると思います。そこでの学習を支援していくことが必要だと思います。

もう一つは、オンラインでできないことが沢山あると思いますが、一つはコミュニケーションを取りやすくなった一方で、偶然出会って話すといった偶発的な出会いはありません。目的のある会合はオンラインでできますが、たまたま出会って気づきがあるというのはオンラインで難しいと感じており、そういう場を作っていこうという動きもあります。オンライン公民館というものを尼崎でやり始めており、久留米市がやり始めたものが広がっているようですが、そういう場を作って誰でも来てください、そこでたまたま出会って、お話するというのはリアルでも公民館が果たす役割で、オンラインでもできないことではないと思います。場づくりを誰がやるかということになります。施設に集まってということも大事だし、オンラインでの環境整備も大事になる、そうするとますます施設はいらなくなるのではという気も少しするのですが、Wi-Fi が使えるといったネット環境を整えていくといったことは公共施設として重要になると感じています。

会長 私もオンライン講義をやっていて思うのは、今までは対面で黒板の前でしゃべっていたら済む話が、知識としてきちんと整理して提供しなければならない、ナレッジマネジメントをしないとできないということがあります。また、偶発的学習という話がありましたが、本屋で本に出会うのと図書館で出会うのとネットで出会う本は全然違います。オンライン公民館もいいと思いますが一つ反論があるのは、施設の必要性について、公民館の必要性、図書館の司書や博物館の学芸員のように施設の専門性はあるので、それがなくてよくなったら、言い方を変えれば大学がいらなくなるということにもなってしまうように思います。

委員 組織もいないという意味でなく、施設が今のようではなくなるという意味です。

会長 はい、わかります。

委員 私は経済分野で主としてビジネスパーソンへの調査をしてきました。その観点からになりますが、コロナの状況の中で、それを越えられる人とそうではない人に注目するのが私の研究上の問題意識です。結論から言えば、学習を広くとらえ

なければならぬと思います。つまり生涯学習という時に、何を学習してもらうか、学校として、市として、国として何を提供するかというコンテンツの話をしたと思います。経済に限定されない話だと思うのですが、人が元気に活躍するために大事な要素があり、人的資本、教育・知識は大事なものになります。生涯学習という時の本家本物はそういうことだと思います。もう一つが最近出てきたのは、ビジネスで活躍するのはそれだけではなく、人の繋がり、社会関係資本と言われるものです。これも知識だけではなく大事な資本になっています。2000年代になると、私の研究テーマでもありますが、それだけでは説明できなくて、心理的資本として、心のしなやかさや強さをもっていけるかということ。いまチャットにリンクを貼りましたが、その中でも日本の就労者の調査を進めています。日本の就労者 5,000 人くらいで、どういう人が収入減になっているかといったことを調べていると、住む場所や会社の大きさ以上に、個人がどのくらい自分に自信を持っていたかといった個人の要因がすごく大事になっています。会社の場所も大事ですが、個人の要素もすごく大きい。そう考えると学びを提供するときに知識も大事ですが、普段の生活の中でプロジェクトを通じて自信を持てる、やればできるという心の状態を作っておけるのは大事なことだと最近思っています。特に 100 年時代と言って、知識を更新するには活力が必要になるので、そういう観点から議論ができればと思っています。学習の概念を広げて心のしなやかさといったことが必要ではないかと思っています。

会長

委員の「心が疲れた」というお話がありましたが、心は身体とつながっていて弱ってればどちらも弱るということがあると思います。もう一点は、文科省の学習指導要領を新しくするときには何を学ぶかだけではなく、どのように学ぶか、何ができるか、経済学の用語ではコンピテンシーということが大事になっています。何かの一つできるようになると自己肯定感が育つ、と言われます。一步一步上げていかなければならないことです。それは心の強さをどう育てるかという話になります。心が弱っていると、オンライン学習の方法など新しいプログラムをやっていく中で心を強くしていくためには、人とおしゃべりする、それがなくなると人は弱っていくといいます。会話の回数が減ると弱ってくるように思います。重要な指摘だったと思います。

委員

大学でオンラインが進んでいますが、学生とオンラインで面談していても、かなりの学生が深夜 3 時 4 時まで起きているといった状況があります。今の状況だからこそ生涯学習・社会教育の役割ということで、私は小学校の社会科が専門ですが、子供の地域参画などをやっている、オンラインではボランティアの参加などがあまりできない状況で、どうやっていったらいいのかという躓きがあります。オンラインを社会的な弱者がサポートを受けたり、貧困の子供の問題などで、学校教育だけではなく生涯学習でもオンラインの学びを無料で提供できる場を作

っていく必要などがあると感じています。この状況でどういうことがやれるか模索していきたいと思っています。

会長 弱者、貧困、格差といった状況について、子供や高齢者をどうサポートするかということでは、生涯学習は学校教育のバックアップをしていく必要はあると思います。コミュニティ・スクールやボランティア、NPOなども生涯学習の中でとらえていかなければならないので、それをどうしていけばよいかということも一緒に考えていきたいと思っています。

委員 経験も知識もないですが、市民として役に立てればと思って公募に参加しました。今の状況と関連付けるのは難しいと思うので思っていることを述べたいと思います。私は神戸市の知的障害者の施設で働いています。その中でゾーニングということが大事になっています。BCP、事業継続計画を作って第2波に備えているところですが、おそらくそれが来るだろうという想定でつくっています。利用者、家族は会えない状況でストレスをためていて、Zoomを設定して連絡を取れるようになどしています。その中で感じるのは、今までは与えられる自由ということがありましたが、今は関係を作り出す自由が大事だと感じています。コロナでは非接触の経済スタイルが問われていますが、そういう変化も受け入れながら人と人の交わりからのエネルギーや刺激を受けながら発展していく社会であってほしいと考えています。日本は非常にいい国だと思っていますし、誰もが長生きできる社会だと思っています。少子高齢化で人口減少していますが、いい社会を使いこなせていないのではないかと感じています。そのあたりが生涯学習の課題だと思っています。

生涯学習・社会教育の課題として、1つ目はコロナ後の新しい社会をどう作っていくかを、生涯学習が先頭に立って進んでいく必要があると思います。西宮にはNPOが50団体以上あり、公民館もあります。西宮の大きな円の中にたくさんの点を作って相互の関係を作っていくこと、水平に有機的に共同していくことが大事になっていると思います。2点目はやはり人生について常に考え直しながら、学び続けて新しい自分のステージを作っていく力を一人一人が持たなければ厳しい世の中になっていくと思います。自分の生き方を確立することが大事だと思っています。千葉大学の事例もありますが、大学の社会教育講座を設定して、そこで学びながら単位を取得するというものもあると思います。大分県では中学生の朝の勉強会をやっているとも聞きます。いろんな取組みがあると思いますが、社会教育が学校教育と家庭教育以上の本気度をもって進めていく、大きな転換期でチャンスだと感じています。市長の公約も読みましたが、公立全校のコミュニティ・スクール化、社会人経験者の教員養成支援等いろいろ入っています。ぜひ西宮市が全国の生涯学習推進モデルになれるようになればと思っています。

会長 非常に大きな視点であり方を語っていただき、生涯学習推進モデルになるようなというお話もありました。新しい社会が確実に生まれている中で、新しい生き方を身に付けていかねばならないという指摘はその通りだと思います。新しい力を個人が身に付けなければならない中、新しい社会がどういうもので、新しい力をどういう力として持っていけばよいかということがこれからの課題だと思います。

委員 コロナの影響で大学の対面授業ができなくなり、オンライン事業が行われると聞いて、できるわけがないと思っていましたが、今までやりたくてもできなかったことや、やろうとしなかったことが意外とできると実感しました。強制的にコロナによってチャレンジしないといけないことが多くありましたが、意外とやればできるということが分かったように思います。その意味で気持ちさえあればできるということを生涯学習で後押しできればと思います。授業や講義を受けていてわからないことを友達や教授に聞いてすぐ解決しようとしていましたが、こうした状況で人に頼らず自分で動いて解決するということで成長したとも感じます。そういうことを生涯学習でもやればと思います。今の状況で、社会教育で形成される他の人とのコミュニケーションや表現力が非常に重視されると感じています。テレビでもリモートになり話せる人が大事になっています。就職活動の面接もオンラインになり、画面の中でどう伝えるかという新しいコミュニケーション力が大事になっています。厳しい状況に勝ち抜いて強い影響を与えるためには様々な経験を積んで臨機応変に対応できる力が必要だと思いますが、そういうことを社会教育で支援できると良いと思います。

会長 プレゼンテーションひとつで全然違うということもあり、オンラインの講義で全然違うイメージを持てたことも確かだと思います。委員は大学3年生ということですが、大学へ行かなくなるとよかったですか。

委員 行かなくてよかったですはないですが、空き時間がなくて好きな時間に勉強できるようになりました。自分の好きな時間に勉強できるのはよかったです。

会長 教える方も、時間制約が前より厳しくなっています。もう一つ委員の言う「気持ちさえあればできる」という部分が大切なことだったように思います。学習をしない人は勉強する気持ちがないというところがあります。気持ちさえあればとされるかどうかは生涯学習の一番大事な部分だと思います。

副会長 私は地域で活動しているので、大きく広い話はないのですが、コロナウィルスの関係では地域の中で感じたことを話したいと思います。今回のことではすべての人が外出を控えざるをえなくなりましたが、その中でも学校では、オンライン

学習などもしていますが、それについていけない子供がいるということが母親から入ってきています。それを誰かが地域の中で教える人がいるので、教えたいと思っても、それをどこでやるかという時に難しいということがあります。そういう時に学びたい、勉強したいという気持ちがあればどこでも、年齢に関係なく、どこでも勉強できるような環境作りが必要だと感じています。学ぶということは、専門家や研究者の知識を教えてもらう学びではなく、地域で目の前で起きている問題に対して、自分たちの知識や考えを出し合っていくような学びに出会うことができれば、地域も住民も学習していけるのではないかと感じています。地域でNPOとして活動していますが、高齢者の憩いの場についても休業せざるをえなくなりました。それによって高齢者も行く場がなくなり、ひきこもっているという話を聞いています。何とかお元気ですかと電話で尋ねたり、家のポストに手紙を入れて脳トレーニングをやって返してもらうようなことをするなどして、この間の高齢者のひきこもりにならないようにやってきましたが、それにも限界があると思っています。またそれをやるための場所として公民館が使えない中で、どこでやるかと言えば、たまたまNPOが持っている場所もあるのですが、そこも怖いという中で試行錯誤しています。今回コロナの関係で、外出自粛の中で一番大変だったのはやはり子供たちであり、高齢者にしわ寄せがあったかなと感じています。青少年愛護協議会では5月29日の解除の通知をいただきましたが、それですぐ動けるかと言えば、いろんな条件があって動けない面があります。その中で子供の学校も半日ごとになっており、地域にいる時間が長くなっているため、それをどうやって守るかが一番考えないといけないことだと思っています。その時に、公民館ということになりますが、どこかでそういう施設、場所が使えないと、何もかもがシャットアウトされて何もできない状況があったので、それがもう少し考えられないかと思いました。

会長

学習についていけない子供の問題に始まり、様々な方法でバックアップしていく上で使える資源をどれだけうまく使うかということもあります。電話訪問などは、メールで済ませることとは異なり、子供に電話で声を聴くのも全然違うことです。それは場を共有するということが非常に大事だと思います。会議も大変ですが、顔を合わせることは大事だと思います。

最後に私からまとめとして、それぞれの委員から良いキーワードをいただいています。それをベースにしながら、モニター調査の内容についても、それらを反映させるような調査内容にさせていただき、新しい社会をつくっていくということ、また推進計画そのものも平成30年度のものとは通常の社会状況を前提にしたものですので、それが全く変わってきていることを踏まえて、推進計画を見直す必要があることが、皆さんからの意見からも思いました。まとめにもならないのですが、それぞれの委員からは特にないでしょうか。

それでは今後の日程について事務局からお願いします。

事務局 今年度の日程については資料9のとおりです。例年通りの開催になるかわかりませんが、日程が近づきましたらご案内しますので、よろしく申し上げます。次回は8月6日（木）にオンライン会議で開催します。

会長 他にご意見はございますか。なければ副会長からご挨拶をお願いします。

副会長 委員の皆様方には、会場にお越しいただいた皆さん、オンラインで参加いただいた皆さんには貴重なご意見をありがとうございます。初めての経験で戸惑いでしたが、冒頭に会長の話があったように、生涯学習推進計画に向けてのそれぞれの立場での意見を活発に出していただきたいと思います。次回以降もどうぞよろしく申し上げます。

会長 以上をもって第2回生涯学習推進審議会を終了します。

以 上